精華町の環境

令和６年度(2024 年度)の報告

令和７年 12 月

精華町　健康福祉環境部　環境推進課

■はじめに

第２次精華町環境基本計画は、「精華町環境基本条例」に基づき、令和３年（2021年）に策定しました。

本報告書は、条例に掲げる基本理念の実現を目指し、住民、事業者、行政などすべての参画と協働のもと、環境に関する施策を総合的かつ計画的に推進するためにまとめたものです。

１．目標像の進捗状況・・・・・・・・・・・・・・・・ P.2

第２次精華町環境基本計画の環境目標の進捗状況を紹介するページです。令和６年度(2024年度)の内容に基づいて各目標像の進捗状況の紹介を行っています。

目標像１【協働・環境学習】
「人・社会・歴史文化」が未来を育むまち～環境“幸”都～・・・・・P.3
目標像２【生物多様性・安全】
「里山・田畑・生活環境」を継承するまち～環境“恒”都～・・・・・P.5
目標像３【資源・気候変動】
「資源・エネルギー」が巡るまち～環境“康”都～・・・・・・・・・P.7
目標像４【経済循環・創出】
「環境・経済の循環」が興るまち～環境“興”都～・・・・・・・・・P.9

コラム：精華町の温室効果ガス排出量　・・・・・・・・・・・・・・・・P.11

２．リーディングプロジェクトの取り組み状況・・・ P.13

環境像・目標像の実現に向け、当面重点的に取り組む具体的行動として位置づけられた５つのリーディングプロジェクトとして位置づけています。令和６年度(2024年度)の内容に基づいて各リーディングプロジェクトの取り組み状況の紹介を行っています。

リーディングプロジェクト①　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.14
次世代を育むプロジェクト
リーディングプロジェクト②　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.14
精華３Ｃ（チァレンジ・クリーン・クロス）プロジェクト
リーディングプロジェクト③　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.15
「今日あなたは（環境に良いことについて）何をしましたか」プロジェクト
リーディングプロジェクト④　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.16
精華里地里山×子ども・町民・事業者プロジェクト
リーディングプロジェクト⑤　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.16
環境への一歩とつながりを育むプロジェクト

■計画の進行管理について

精華町では、「精華町環境基本計画」を推進するため、PDCAサイクル（Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(実施)）によって毎年、活動を評価し、進行管理を行います。この進行管理の中で、「精華町の環境」(年次報告書)を公表し、精華町環境推進委員会による評価と住民の皆さんからのご意見やご提案をもとに施策や事業を見直し、改善を図りながら、取り組みを進めていきます。

Ⅰ．目標像の進捗状況

精華町環境基本計画は、行政の施策を基本としながら、住民・事業者・住民団体など多様な主体の連携・協力によって相乗効果をもたらし、総合的に推進する体制で進めています。また、取り組みの相乗的な効果を評価し共有化するため、環境像と４つの目標像を定め取り組み内容を整理し、環境像・目標像の実現に向けて大きな効果が期待される、当面重点的に取り組む具体的行動を５つのリーディングプロジェクトとして位置づけています。

この「精華町の環境」では、４つの目標像について、令和６年度(2024 年度)の取り組み結果に基づき、その取り組み状況などをまとめています。また、目標像に関連する定量目標、主な施策・事業の進捗状況を紹介し、環境推進委員会の評価を報告し、それに対する町の考え方を記載しています。

●目標像とリーディングプロジェクト（当面重点的に取り組む具体的行動）の関係

		【環境像】「環境の恵み」「人」「知恵と技術」が交わるまち～環境交都・精華町～			
		【目標像】			
		①協働・環境学習「人・社会・歴史文化」が未来を育むまち～環境“幸”都～	**②生物多様性・安全**「里山・田畑・生活環境」を継承するまち～環境“恒”都～	**③資源・気候変動**「資源・エネルギー」が巡るまち～環境“康”都～	**④経済循環・創出**「環境・経済の循環」が興るまち～環境“興”都～
リーディングプロジェクト	次世代を育むプロジェクト	★	○	○	★
	精華３Ｃ（チャレンジ・クリーン・クロス）プロジェクト	○	○	★	○
	「今日あなたは（環境に良いことについて）何をしましたか」プロジェクト	★	○	○	★
	精華里地里山×子ども・町民・事業者プロジェクト	○	★	○	○
	環境への一歩とつながりを育むプロジェクト	★	○	○	○

★：特に深いかかわり

目標像1	【協働・環境学習】 「人・社会・歴史文化」が未来を育むまち～環境“幸”都～	
定量目標		
環境学習に資する町主催・後援の取り組み件数	2031年度の目標値	10(件/年)
	実績値（2024 年度）	8(件/年)
	動向	目標値の 80%を達成した。(前年度 70%)
取組実績 （2024 年度）	○町内希望小学校の4～6年生に「環境日記」で環境学習を実施。 ○「環境のつどい」で、環境日記に取り組んだ優れた作品の小学生を表彰。併せて講演会、環境工作教室を実施。 ○環境省補助金を活用して作成した、「省エネ家電への切替」を促すナッジ手法を用いたリーフレットを配布。 ○「STEP 映画会」で、「環境問題」をテーマに環境啓発映画を上映。 ○「STEP 講演会」で、環境に関する講演会を実施。 ○木津川市と共催で、商業施設においてデコ活の啓発を実施。 ○「打ち水イベント」で、環境に関する体験学習を実施。 ○町内小学生を対象とした「エコ見学ツアー」で環境学習を実施。	
（要因分析）	令和 5 年度に引き続き、環境日記、STEP 映画会、打ち水イベント、せいか祭りなどの定例の 7 事業を実施し、令和 6 年度はエコ見学ツアーを新たに実施した。さらなる環境学習の機会を拡大・充実させるため、2031年度の目標値を10件と設定している。	

主な施策・事業の進捗状況		
事業名	進捗状況	担当課
（1）地域の多様な関わりの増進		
環境衛生一般 【精華町環境推進委員会及び精華環境プラットホーム】	環境基本計画の推進に向け、環境推進委員会を 3 回開催。 環境プラットホームは、住民及び事業者の環境に関する話し合いの場として開催。	環境推進課
（2）環境学習の推進		
環境日記	町内の小学生を対象として、身近な環境に関心を持ち、地球に優しい活動に取り組んでもらうことを目的とした環境学習の一環として実施した。（応募総数 130 件）	環境推進課
環境イベント 【環境のつどい】	環境日記に取り組み優秀な日記を書いた小学生に対して表彰式を 12 月 21 日に実施。パナソニック株式会社による講話、環境工作教室を実施した。	環境推進課
環境啓発	地球温暖化対策を家族と一緒に考えてもらうきっかけとなるよう、小学生向けのクールチョイス冊子やデコ活に関するパンフレットをイベントで配布した。	環境推進課
その他の実施事業		
環境対策推進【STEP 映画会】【STEP 講演会】／せいか祭り／エコ見学ツアー		

評価	
環境推進委員会の評価	○定例イベントの開催ができたことと、新たなイベントを開催したことは評価する。 ○今後も継続的な啓発活動を期待する。
今後に向けて	○環境啓発活動について、環境学習に資する町主催・後援の取り組み件数10件の達成だけではなく、参加人数を増やせるよう内容の充実を図っていく必要がある。 ○環境や地域の歴史・文化を小・中学生の探求学習などと連携しながら継続的な学習機会の提供が必要である。

●取り組み内容

●クールチョイスの推進

地球温暖化対策につながる賢い選択をしようという国民運動（クールチョイス）を推進するため、小学生向けクールチョイス啓発冊子を作成・配布した。また、横断幕、懸垂幕、ポスター、のぼり旗などの設置により啓発を行っている。



小学生向けクールチョイス啓発冊子



近鉄新祝園駅前



くるりんバス内

目標像2	【生物多様性・安全】 「里山・田畑・生活環境」を継承するまち～環境“恒”都～	
定量目標		
給食での地場産物の年間利用回数の割合	2031年度の目標値	・保育所給食 15.0%以上 ・小学校給食 20.0%以上 ・中学校給食 15.0%以上
	実績値（2024 年度）	・保育所給食　6 % ・小学校給食　8 % ・中学校給食　9 % ※数量で算出している。
	動向	全体数量は横ばいであった。
子どもたちが里山や田畑に触れた件数	2031年度の目標値	・全生徒が触れること
	実績値（2024 年度）	・学校農業体験 16 回 ・森林環境教室 4 回
	動向	実施回数は横ばいであった。
取組実績 （2024 年度）	〇せいか里山の会では、一年を通して保全活動を行い、自然体験などのイベントを開催した。 〇学校農業体験として、町立の小学校 5 校、中学校 3 校及び支援学校 1 校の 9 校すべてで計画し、実施した。 〇森林環境教室として、町立小学校5校の内、4校で計10クラス・4回実施。 〇洛いも植付・収穫体験を、すべての町営保育所(3保育所)で実施。	
（要因分析）	〇学校給食への地場産野菜の食材提供量は、令和6年度には学校給食地場産野菜調達業務で天候不良の影響などにより、じゃがいも等の重量を占める根菜の提供量が前年度より減少した。 〇取組内容は、例年実施している取り組みであり、雨天のため中止になった取り組みもあるが実施回数は横ばいであった。	

主な施策・事業の進捗状況		
事業名	進捗状況	担当課
（1）里地里山の保全と継承		
里山保全モデル事業	里山が持つ豊かな自然を保全、再生するための下草刈りなどの定例保全活動を計 10 回（参加人数 82 人）[令和 5 年度：計 8 回(参加人数103 人)]実施した。	農政課
（2）安全・安心な環境の確保		
環境汚染対策事業	河川水質調査、学研地区進出企業への環境保全計画の審査や環境保全協定による立入調査を実施した。	環境推進課
（3）環境美化活動の推進		
道路・公園等維持管理事業	住民と行政の協動による「クリーンパートナー」により、道路清掃や除草、植栽帯の維持管理など美化作業を通して、環境美化に対する意識の高揚、環境との共生、安全で安心なまちづくりを推進した。町内で 34 団体(1,706 人)が活動を行っている。	建設課

（4）美しい景観の充実		
あき地等適正管理指導	あき地の所有者に対し、除草等の適正管理を促すための指導を行い、住環境の保全に努めました。	環境推進課
その他の実施事業		
健康づくり推進事業【食育の啓発推進】／農産物育成・販売推進事業／地域担い手育成総合支援事業／精華町まちをきれいにする条例の周知・啓発／きれいなまちづくり運動推進事業／都市公園維持管理事業／道路維持管理事業／農業委員及び農地利用最適化推進委員の取り組み		
評価		
環境推進委員会の評価	○農業の継承について、高齢化が課題となっており、農業従事者が現在の農業政策や気候変動による農作物への影響など、今後の農業従事に関する展望を図れるような情報の提供が必要である。 ○町として地域の取り組みを取り上げて後押しするのか見えて来ない。	
今後に向けて	○農業分野について、農業従事者や地元の人だけでなく、外部の人とどう連携しながら進めていくのかが課題であり、移住者や都市住民の力を借りながら、農業の価値を見出していく必要がある。 ○地産地消の農業政策を進める上で、具体的な施策が求められる。 ○農地所有者が地域企業に農地を貸借し、農業体験ができる場とするなどの地域と企業が連携できる活動について、情報提供が求められる。	

●取り組み内容

●学校農業体験

田植えや稲刈りの農業体験を実施した。



川西小学校（田植え）

●せいか里山の会

里山の豊かな自然を保全し再生するため、下草刈りなどを実施した。



里山の保全活動

●河川の水質検査

毎年２回、町内の 12 河川、１８地点の水質を調査し、きれいな水であることを確認した。






目標像3	【資源・気候変動】 「資源・エネルギー」が巡るまち～環境“康”都～	
定量目標		
町民１人が１日に出すごみの量	2031年度の目標値 ※一般廃棄物処理計画の目標値と連動します。	令和3(2021)年度と比べて令和8(2026)年度に１人１日あたり、ごみ総排出量で約3.7%削減(28.6gの減量)
	実績値（2024 年度）	約 5.0%削減(39.18g の減量) ※令和 3 年度　783.1g/人・日
	動向	平成 27 年度比では、平成 29 年度までは減少でしたが、平成 30 年度に増加に転じ、令和 2 年度以降は再び減少傾向である。
資源・気候変動に関する情報発信 (うち、再生可能エネルギー等に関する情報発信)	2031年度の目標値	・20(件/年)　(うち、5(件/年))
	実績値（2024 年度）	・67(件/年)　(うち、23(件/年))
	動向	目標値を上回った。
取組実績 （2024 年度） (うち、再生可能エネルギー等に関する情報発信)	○ごみの量について：家庭ごみの減量を目的に「食品ロス削減キャンペーン」として、町内公共施設や小売店などで啓発を実施。 ○情報発信件数について：広報誌への掲載は 45 件(うち、8 件)。ホームページへの掲載は 22 件(うち、15 件)。	
（要因分析）	○全国的にごみの減量（3R 活動など）や脱炭素化が大きな話題となったことに加え、啓発活動の活性化の影響もあり、令和 6 年度の町民１人が１日に出すごみの量が大きく減少した。 ○情報発信件数については、資源関係の情報発信件数は例年多いが、エネルギーに関する内容の充実が必要である。	

主な施策・事業の進捗状況　※[ ]内は前年度実績		
事業名	進捗状況	担当課
（1）地球温暖化防止の推進と気候変動影響への適応		
自立型再生可能エネルギー導入促進事業	住宅におけるエネルギー供給の自立化の促進のため、住宅用太陽光発電設備及び住宅用蓄電設備の同時設置への補助を実施。京都府との連携による普及啓発に努めた。	環境推進課
庁舎維持管理事業	KES 環境マネジメントシステムによる環境改善活動において、庁舎全体の二酸化炭素排出量は765，207 kg〔令和 5 年度:763，892 kg〕となり、対前年度比 0．17%の増加となった。	総務課
（2）循環型社会の構築		
ごみ収集処理	3R のうち、特にリユースを重点的に推進した。その他にも、ごみの減量化に向け「食品ロスの削減」、「生ごみの水切り」、「その他のリサイクルできる紙」の分別の 3　点を推進した。また、廃棄物リサイクルに向け、9種類の分別収集を実施した。	環境推進課

事業名	進捗状況	担当課
廃棄物減量･リサイクル推進事業	「ごみの収集日程表」及び「ごみの分別辞典」を作成し、各戸配布したほか、ごみ分別アプリを導入し、約９千件（令和７年３月31日時点）のダウンロードがあった。また、快適な生活環境を確保するため、町内各種団体の協力を得てクリーン･リサイクル運動を展開した。41自治会、12,040名参加[令和５年度41自治会、10,468名参加]	環境推進課
（3）環境に配慮した交通手段の充実		
コミュニティバス運行事業【公共交通の利用促進】	高齢者や交通弱者の足として、公益性の高い施設を結び、地域交流の促進、福祉増進を目的に、コミュニティバス運行事業を実施した。また、より利用いただきやすい、運行形態などについて、学識経験者や地域住民とともに検討を行った結果、一部地域でのデマンド交通への切替を行うこととなった。	都市計画課
その他の実施事業		
公用車管理事業【公用車に低公害車を導入】／環境汚染対策事業【みどりのカーテン】		
評価		
環境推進委員会の評価	○他自治体や町内に立地する企業の先進的な方法論や取り組みの事例を町民の方に共有することは有効であると思われる。 ○立地する企業の活動については都市排熱などが懸念される。 ○町の事業において、環境への配慮が不足していると思われるものが見受けられる。	
今後に向けて	○ごみの発生抑制に向けた一層の啓発が求められる。 ○地域経済に対する町としての方針や施策についての具体的な広報を期待する。 ○町の各種事業の実施にあたって、より積極的な環境への配慮が行われるようマネジメントの仕組みづくりが必要である。	

●取り組み内容

●食品ロス削減キャンペーン

10月･11月にのぼり旗や掲示物を町内公共施設、町内小売店などで掲示し啓発した。

また、平成29年度から京都府立大学と進めてきた共同研究の調査の中で、「食品ロスの削減」について効果が見られた3つの行動を実践していただいた冷蔵庫内の整理後の写真募集や、環境推進課の窓口を受付場所としたフードドライブ、食品ロス削減アイデア募集を実施した。

☆「食品ロスの削減」に効果が見られた3つの行動☆

①「傷みやすい食品を、優先的に使う」

②「すぐ使う食品は、冷蔵庫の目線の位置に置く」

③「買い物前に、冷蔵庫を確認する」





目標像4	【経済循環・創出】 「環境・経済の循環」が興るまち～環境“興”都～	
定量目標		
HPや広報等における企業の環境に関する取組情報の発信件数	2031年度の目標値	・5(件/年)
	実績値（2024 年度）	・6件(件/年)
	動向	目標値を上回った。
取組実績 （2024 年度）	令和 4 年度からホームページや広報誌などに企業の環境に関する自主的な取組事例を掲載した。	
（要因分析）	ー	
主な施策・事業の進捗状況		
事業名	進捗状況	担当課
（1）)関係機関との連携及び事業者の取り組み促進		
学研都市建設推進・活性化事業	京都・けいはんなの産業振興とスマートシティの情報発信により、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に貢献するため、京都スマートシティエキスポを開催している。環境・デジタル・まちづくり・ヘルス・フードテックを中心にオープンイノベーションの推進を図り、『超快適』スマート社会」の創出を目指している。本町では、ICT を基盤とした産業に関する企業や研究者、住民などが多数集い、交流を図るこの京都スマートシティエキスポの運営に参画し、関係諸団体と連携して事業の進展を図った。	企画調整課
企業誘致促進事業	○職住近接のまちづくりや地域経済の活性化を図り、また本町のまちづくりの基本理念の一つである将来にわたり高度な都市運営を支える自立のまちづくりを推進するため、助成金を支出した。 ○企業立地促進条例を施行し、京都府などと連携を図りながら企業誘致に努めた結果、企業立地の促進が図れた。	商工推進室
特産品開発推進支援事業	精華町地域資源総合管理センター華工房を拠点とした精華町特産品開発連絡協議会の活動について、町内の JA 直売所や近隣市町村の旬の駅に販売コーナーを設けて販路確保や販売促進に努め、地域特産品の育成を支援した。	農政課
評価		
環境推進委員会の評価	○脱炭素社会に向けて、社会的な取り組みが加速している状況にあることから、精華町として住民団体や企業、他自治体などと連携した取り組みの推進が期待される。 ○企業の立地にあたっては、まちの環境に十分配慮いただく必要がある。	
今後に向けて	○地産地消における常設地産物販売店舗を増やすとともに、地産地消の啓発と広報をしていく必要がある。 ○企業活動については、環境への配慮や SDGsへの貢献など学研都市の理念を共有して取り組んでいただけるよう、協力の輪を広げていく必要がある。	

●取り組み内容

●企業などの環境に関する取組事例を紹介

令和４年度から町内企業などの「環境に関する自主的な取組事例」を募り、町のホームページで紹介している。

町内で活躍されている他の企業の取組事例を参考に、環境に関する自主的な取り組みが一層広がり、環境意識のさらなる向上を目指している。

https://www.town.seika.kyoto.jp/kakuka/kankyo/1/1/1/20227.html



●精華町の特産品など

精華町の農産物などを使用した「お酢」「お菓子」「各種ジャム」などを開発・販売している。





全国各地のイベントで精華町の PR と各種特産品を販売した。





●コラム：3つの危機への対応

・　現在、世界で起きている気候変動、生物多様性の損失、汚染といった環境危機は複合的に連関しており、これら3つの危機への対応に当たって、脱炭素（ネット・ゼロ）、自然再興（ネイチャーポジティブ）、循環経済（サーキュラーエコノミー）等を統合的に実現する経済社会の構築が求められています。

<気候変動>

・　世界気象機関（WMO）は、2024 年が観測史上最も暑い年となり、世界の平均気温が工業化前と比べて約 1.55℃上昇と、単年ではあるが初めて 1.5℃を超えたことを発表しました。

・　我が国においては、2024 年の夏（6 月～8 月）の平均気温の平年との差は、1946 年の統計開始以降、西日本と沖縄・奄美では 1 位、東日本では 1 位タイとなりました。また、5月から9月までの全国の熱中症による救急搬送人数は、調査開始以降、最も多くなりました

<生物多様性の損失と経済的影響>

・　2025 年 1 月に世界経済フォーラム(WEF)が発表した「グローバルリスク報告書 2025」では、今後 10 年間で世界の GDP や人口、天然資源に甚大な影響を及ぼし得るリスクとして、生物多様性の損失及び生態系の崩壊が、異常気象に次いで第2位に位置づけられています。

<循環経済へ>

・　世界の天然資源の採取と加工が、地球全体の温室効果ガス排出量の要因の 55%以上、陸域の生物多様性の損失と水ストレスの要因の 90%以上、粒子状物質による健康影響の最大 40%を占めています。

・　使い捨てを基本とする大量生産・大量消費型の線形経済から循環経済への取り組みが必要です。

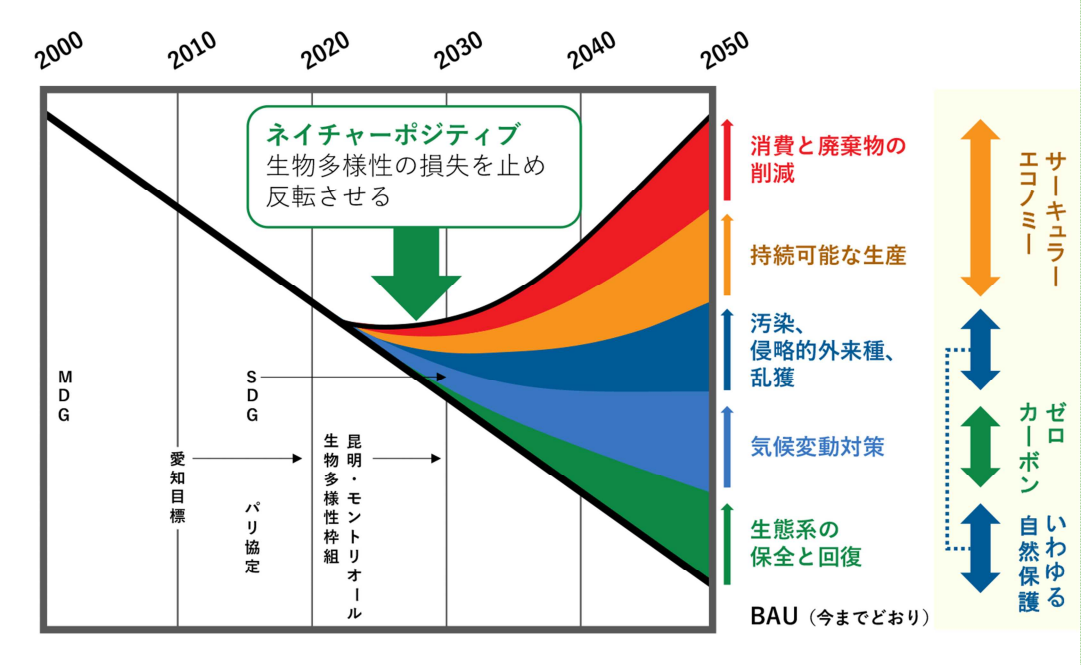


出典：令和7年度版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書　特集ページ

●コラム：統合的対応／脱炭素につながる新しい豊かな暮らし

<ネイチャーポジティブ>

- 「ネイチャーポジティブ：自然再興」とは、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことであり、自然保護だけを行うものではなく、社会や経済全体を生物多様性の保全などに貢献するよう変革させていく考え方です。
- 「ネイチャーポジティブ」の実現に向けて、保護地域の拡張や地域生物多様性増進法に基づく自然共生サイトの認定促進など「30by30 目標」の達成や、企業が自然資本保全の考えを経営に組み込むなど「ネイチャーポジティブ経済」への移行、特定外来生物対策や希少種の保全などの地域における取り組みが進められています。



出典：環境省生物多様性国家戦略 2023-2030

「デコ活」（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）アクション

分類			アクション
まずはここから	住	デ	電気も省エネ　断熱住宅（電気代をおさえる断熱省エネ住宅に住む）
	住	コ	こだわる楽しさ　エコグッズ（LED・省エネ家電などを選ぶ）
	食	カ	感謝の心　食べ残しゼロ（食品の食べ切り、食材の使い切り）
	職	ツ	つながるオフィス　テレワーク（どこでもつながれば、そこが仕事場に）
ひとりでにCO_2が下がる	住		高効率の給湯器、節水できる機器を選ぶ
	移		環境にやさしい次世代自動車を選ぶ
	住		太陽光発電など、再生可能エネルギーを取り入れる
みんなで実践	衣		クールビズ・ウォームビズ、サステナブルファッションに取り組む
	住		ごみはできるだけ減らし、資源としてきちんと分別・再利用する
	食		地元産の旬の食材を積極的に選ぶ
	移		できるだけ公共交通・自転車・徒歩で移動する
	買		はかり売りを利用するなど、好きなものを必要な分だけ買う
	住		宅配便は一度で受け取る

※デコ活アクションの詳細については、https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/action/から確認を。（今後随時追加更新予定）

出典：令和 7 年版　環境・循環型社会・生物多様性白書

２．２．リーディングプロジェクトの取り組み状況

精華町の環境像・目標像の実現に向けて大きな効果が期待される、総合的かつ横断的な推進が必要な当面重点的に取り組む具体的行動を５つのリーディングプロジェクトとして位置づけ、環境基本計画全体を実現に向けてリードする。

５つのリーディングプロジェクト

① 次世代を育むプロジェクト

これまでの環境学習の取り組みを活かし、伸ばす取り組みを実施する。

また、事業者と環境学習とのつながり創出、地域内の事業者同士が知り合ったり、事業者と地域や地域団体が出会い、新たな活動の創出を生み出す場づくりを行う。

② 精華３Ｃ（チャレンジ・クリーン・クロス）プロジェクト

地域のすべての人が、地域の環境を守り、未来を大きく育むまちを実現するために、まちを美しくする活動を進める。

また、環境に触れるきっかけとして、テーマを決めて取り組むものとする。

③「今日あなたは(環境に良いことについて)何をしましたか」プロジェクト

地域のすべての人が、環境に関わる活動の中で充実した体験・経験を得て、自主的な環境活動を進める。地域の事業者の方をはじめとして、地域の方が、どのような活動をしているのか、見える化する。

④ 精華里地里山×子ども・町民・事業者プロジェクト

地域の里地里山の保全・活用に関する取り組みの推進及びそれらの魅力・文化を町民へ伝えていくための活動を進める。

⑤ 環境への一歩とつながりを育むプロジェクト

地域のすべての人が、地域の環境を守り育てるまちづくりを実現するために、多様な主体が連携可能な仕組みづくりを行う。

令和６年度（2024 年度）の話題

〇３Ｒ推進に向けた企業との協定締結

精華町では「環境負担が少ない『循環型社会』の構築」を掲げ、様々なごみ減量の活動を行っており、脱炭素に向けた温暖化対策の柱の１つとして資源循環の推進、リユースの更なる促進を目指すべく株式会社ジモティー並びに株式会社マーケットエンタープライズと連携協定を締結しました。

〇クーリングシェルター指定

精華町では、熱中症による健康被害を未然に防止するためにクーリングシェルターの指定をしました。熱中症特別警戒アラートが発表された際に、一般開放される施設となりますので、ご利用ください。

ジモティー

MARKET ENTERPRISE



２．リーディングプロジェクトの取り組み状況

リーディングプロジェクトの広範囲な分野にまたがる取り組みを総合的に推進するためには、従来からの取り組みを踏まえ、社会情勢などを考慮し、その時々での動向を察知して、進めていくことが大切である。そこで、ここでは各プロジェクトに関連した施策などについて紹介する。

① 次世代を育むプロジェクト

【トピックス】

● STEP 映画会

精華町環境ネットワーク会議(STEP)と共催し、STEP 映画会及び竹あかりワークショップを実施。映画会では「環境問題」などをテーマに上映し、毎月１回上映し、意識啓発を実施した。



● 環境のつどい

優秀な環境日記を書かれた子どもたちへの表彰式と、パナソニック㈱の協力で、太陽光発電の講話や環境工作教室(ソーラーハウスランタン)を実施した。

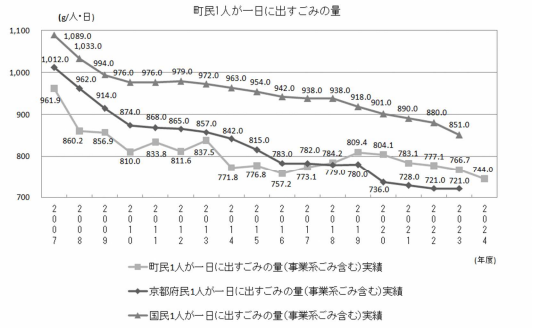


② 精華３Ｃ（チャレンジ・クリーン・クロス）プロジェクト

【トピックス】

●クリーン・リサイクル推進

地域の道路・公園などに散乱しているごみを住民自らが清掃する活動。開橋周辺での重点活動は各種団体などから約 100 名が参加した。



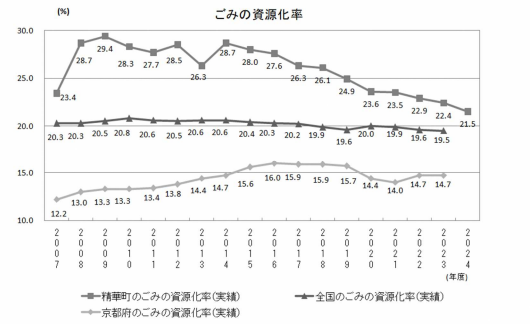
●まちをきれいにする条例

「ポイ捨て」「ふん放置」「落書き」を禁止した精華町まちをきれいにする条例を周知し、その効果を図るため、定点で観測及びごみ拾いを実施した。また、放置された場所に、チョークを使用し、日にち等を記載し、抑止力の向上に努めている。



●循環型社会形成

古紙回収事業、生ごみ減量事業、廃食用油回収事業、使用済み小型家電回収事業を実施。回収後、リサイクル事業者への引き渡しを行い、ごみ減量と環境負荷の低減に努めた。また、廃食用油、使用済み小型家電の拠点回収場所について、自治会や事業者の協力を得ながら増設に努めた。



③「今日あなたは(環境に良いことについて)何をしましたか」プロジェクト

【トピックス】

●保育所での打ち水イベント

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、令和元年度から中止していたが、令和６年度より再開。省エネルギー・節電を呼びかけるため、こまだ保育所で園児を対象とした打ち水イベントを実施し、打ち水の効果を体験してもらえた。



●環境日記の実施

環境日記の取り組みは、身近な環境に関心を持ち、地球にやさしい活動に取り組んでいただくことを目的とした環境学習の一環として実施しており、６月から８月の間で８週間毎日続けて日記を綴る取り組みである。

令和６年度は、全国コンテストで１６名が入賞された。

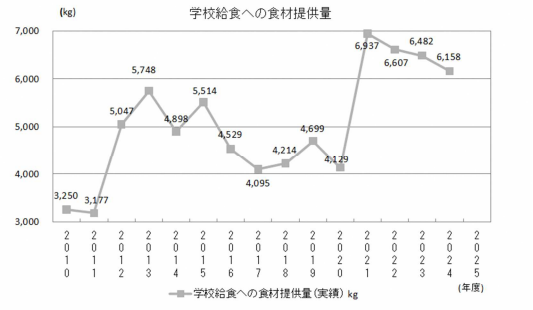


④ 精華里地里山×子ども・町民・事業者プロジェクト

【トピックス】

●学校給食への地元産野菜の提供

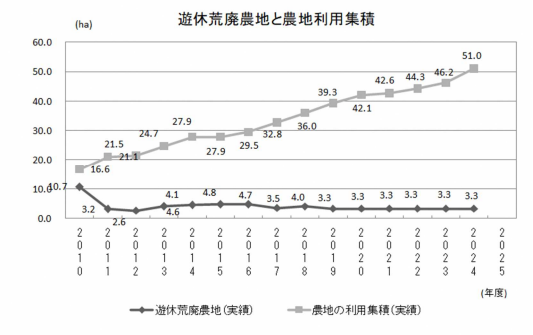
新鮮で安全・安心な農産物を子どもたちに提供できるよう、学校給食への地元産野菜の納入を促進した。令和６年度は極端な暑さの恒常化や大雨など天候不良の影響などにより、じゃがいも等の重量を占める根菜の提供量が減ったため、提供量は前年度と比較して減少した。



●遊休地解消

農地の集約化を推進するため、国による農地中間管理事業に取り組み、活用を呼びかけた。農地利用集積などにより、農地の有効活用を図り遊休荒廃農地の増加を抑制することができた。

※農地利用集積とは、利用されていない農地を第三者（個人や法人など）に貸すなどして、活用された農地の面積のこと。



⑤ 環境への一歩とつながりを育むプロジェクト

【トピックス】

●令和６年度は多様な主体との連携を図るために、気候変動と子どもをテーマとした環境プラットフォームを開催した。



精華町の環境
令和6年度（2024 年度）の報告

発行：令和 7 年 12 月
精華町健康福祉環境部環境推進課

〒619-0285
京都府相楽郡精華町大字南稲八妻小字北尻 70 番地
電話:0774-95-1925
FAX:0774-95-3973
URL: https//www.town.seika.kyoto.jp